

## おわりに

本校では、平成30年度から令和2年度まで、「各教科等を合わせた指導における、子どもが主体的に活動できる授業づくり」を研究テーマに三か年計画で取り組みました。令和2年度の12月には、自主公開研究会（WEB開催）を実施し、多くの方々に御参加いただき、たくさんの御感想、御示唆をいただきました。

この三年間での研究の成果と課題を踏まえ、本年度の研究主題を「各教科等を合わせた指導における、学習評価に基づく子どもが主体的に活動できる授業づくり」とし、『『単元計画表』『PDCAサイクルシート』『流れ図』の効果的な活用について』を副題としました。小学部と中学部は生活単元学習で、高等部では作業学習で「単元計画表」「Pシート」「流れ図」の三つのツールを活用し、授業づくりを行いました。

一学期に中学部、二学期に小学部が1回ずつ学部研究会を行い、12月に高等部が全校授業研を実施しました。各教科等の目標や内容など「何が身に付いたか」を整理し、合わせた指導で育成される資質・能力が明らかになったことで、Pシートを使いやすく改良し、3観点に沿った学習評価から授業改善に向かう好循環の仕組みが整えられ、子どもが主体的に活動できる授業づくりができるようになりました。

また、これと共に、実施される授業がどの教科と合わせて指導を行うかを、学習指導案に明記するようにしたことで、学習指導要領で各教科等の示す内容を基に具体的に指導内容を設定する習慣が身に付いてきました。

これらの様式を整備したことで、本年度の目標にしてきた学習評価に基づく授業改善を通して各教科等を合わせた指導における、知的障害のある子どもが主体的活動できる授業づくりのシステムは一定の形を見ることになりました。次年度は、合わせた指導や本校の教育課程の質の向上をめざしたカリキュラムマネジメントに向け、研究事業を推進していきたいと考えています。

最後になりますが、研究活動を推進するに当たり、本校にお越しいいただき、多くの御示唆を御教示いただきました、聖徳大学 教授 堀子 榮 先生に厚く御礼申し上げますとともに、引き続きの御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

教頭 村田 幸一